阿南工業高等専門学校

令和２年度　第 18 回参与会報告書

令和３年２月４日（木）１５時～１６時３０分　阿南工業高等専門学校会議室

◆ 概　要

阿南工業高等専門学校では、教育研究、管理及び運営、地域連携等に関する重要事項について、学外有識者から助言を求めるため毎年参与会を開催しています。令和２年度の参与会は本校において２月４日（木）に開催し、９名の参与にご出席いただきました。いただいたご助言を学内で周知のうえ情報共有するとともに、教職員が一丸となって改善に向けて取り組んでまいります。

また、本校では、本会に関わらず広く多くの方からのご意見等をいただき、教育改善につなげきたいと考えております。

◆ 出 席 者

[参与（外部有識者）]

【会　長】徳島大学大学院社会産業理工学研究部長	橋爪　正樹　氏
阿南市市民部長　佐野雅史氏（表原　阿南市長 代理）	
（一社）徳島新聞社編集局報道本部地方班統括部長	滝本　昇　氏
徳島県政策創造部県立総合大学校本部副本部長	板東俊夫 氏（竹岡 本部長代理）
阿南高専教育研究助成会長	西野　賢太郎　氏
徳島県技術士会理事	花岡　史恵　氏
徳島県教育委員会学校教育課指導主事	宮田善夫氏（藤本 教育委員会教育次長 代理）
徳島県中学校長会長（阿波中学校長）	湯藤　義文　氏
阿南高専同窓会長	横手　久典　氏

[阿南高専]

校　長	平山　けい
副校長	田中 達治
副校長･教務主事	坪井　泰士
学生主事（校長補佐）	勝藤　和子
寮務主事（校長補佐）	原野　智哉
学科長（校長補佐）･国際交流室長	松本　高志
専攻科長（校長補佐）･JABEE 委員会委員長	吉村　洋

◆ 実施方法

１．参与会開催前

参与会開催までに資料を事前に送付し、資料について質問、意見等がある場合は「意見書」として事前に提出いただいた。

２．参与会当日

・資料に基づき本校各担当から口頭による説明を行った。
・各参与から事前に提出された「意見書」に対する本校の対応について説明を行った。
・質疑応答を行った。

３．報告書をホームページにて公開した。

◆ 「意見書」に対する本校の対応状況

【表原参与】

(1)　2028 年における阿南市の将来都市像である「多様な産業が咲き誇る生涯チャレンジ都市 阿南」を実現するため、御校ならびに関係各位による「多様なつながり力」を欠かすことはできない。御校の掲げられている崇高な理念が、地域社会の課題解決等を通じて実現できますように、阿南市としても引き続き積極的に参画したいと考えている。

本年度においては、阿南市総合計画 2021-2028 の策定プロセスの中で、学生さんとのワークショップを通じ双方にとって大変有意義な時間を共有することができたが、2021 年度においても引き続きこのような形で、官学のさらなる連携体制を構築できる機会をいただきたい。

【本校の対応】

全国に５１高専あるが、阿南市に阿南高専があるという意味は地元である阿南市に本校が貢献することであり、今後も阿南市ご協力のもと、連携を強化することで、本校の教育高度化と地域貢献を推進していきたい。

【花岡参与】

（１） コロナ前とコロナ渦中の学生さんの良い変化、あまり良くない変化について教えてほしい。

（２） コロナ禍における先生と学生のコミュニケーション及び学生同士のコミュニケーションの取り方について、工夫されている点について教えてほしい。

（３） 徳島県技術士会は、3 年生4 年生の建設コースを対象に出前講座を開催しているが、コロナ禍で昨年は中止となり、今年も開催が危ぶまれているが、出前講座以外でも、徳島県技術士会として何か役に立てることがあれば、知らせてほしい。

（公社）日本技術士会四国本部において、2019 年度から男女共同参画推進小委員会が設立されていることから、その点からも協力できることがあれば知らせてほしい。

【本校の対応】

（１、２）マイナスの変化について、遠隔授業を行っていた際にはライブ配信だけではなくオンデマンドによる授業を行っていたことから、生活サイクルが夜型になる学生もいたため、朝の時間にショートホームルームをライブで行う等により、生活サイクルを修正するという工夫を行った。

また、友人関係においては、特に構築することが難しい１年生については対面授業再開後に担任による面談や保護者への説明会の回数を増やす等、コミュニケーションや対面での人間関係の構築に留意している。

（３）インターンシップがリモートによるものが主流となっており現場を見るという機会がないため、技術士会で現場を見学できるところがあればその情報を提供いただきたい。密を避けた状況で見学会を実施したい。

【横手参与】

カレッジガイドについて

（１）近年の入試時の競争率等に関することを入れてはどうか。

（２）就職先での卒業生のエンジニアとしての活躍している記事を充実させた方が良いのではないか。

【本校の対応】

（１）入試の倍率をカレッジガイドへ掲載することについて検討したい。

（２）カレッジガイドに１頁掲載しているが、エンジニアとしての活躍している記事を掲載したい。また、エンジニアとして活躍する卒業生の紹介について情報提供の面でご協力のもと実施していきたい。

【西野参与】

（１）概要１．阿南高専に入学してくる学生

・阿南高入学希望者数（推薦入学・入試志願数）の減少について

阿南高専入学希望者数が漸減している。今年度はコロナ禍によりオープンキャンパス等の実施ができなかったことも要因の一つかもわからないが、中長期的活動として、小中学生を対象としたオンラインの広報や授業が必要ではないか。

（２）概要３

中学卒業後の柔軟な発想力を有し「大学入学共通テスト」を求められない若い世代において「モノづくり技術」を持つ高専卒業生は産業社会を支える基盤人材育成を担っていることから、今一度、高専教育の魅力と地域社会と連携した高専教育の広報に尽力していただき、高専受験生の拡大を図って頂きたい。

（３）概要４．コロナ禍にあっても。

可能な限り外部機関にも検証し、今後の発生可能性の高い、南海トラフ巨大地震を見据えた緊急時非常時の対策に活かして被害の最小化に取り組むことを提案する。

（４）参与会運営について

参与会による委員からの意見や提言について、高専内ではどのように取り組まれているのか。

【本校の対応】

（１）入学希望者の減少については推薦入試の倍率が 1.65 倍であり例年と変わりはなく、ここ３年間の中学生人口が減少していることを加味すると減少していないと考える。

なお、オープンキャンパスはオンラインで開催した。ご提案等があればお願いしたい。

（２）各産業界、地域との連携、共同研究の取組の必要性についてはご意見のとおりであり、また、国際ブランド「KOSEN」は東アジア圏を中心として、高度技術者育成の役割が大きいということもご意見のとおりである。

本校では専攻科の充実が重要であると考えている。研究の充実は高専教育の高度化につながることであり、教育の質保証と合わせて取り組んでいる。

（３）南海トラフ巨大地震の緊急非常時の対応について、最悪の場合を想定し取り組み始めているところである。

（４）参与会以外の外部評価として、高等教育機関は機関別認証評価を７年毎に受審することとなっている。独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による機関別認証評価の審査基準に基づき審査され、平成 30 年度の審査では、本校は全ての項目を満たしているとの評価をいただいた。この審査結果は機関別認証評価報告書としてホームページに公開している。

もう一つの外部評価として、一般社団法人日本技術者教育認定機構（JABEE）により、世界水準のエンジニアを育成、養成するための要件を満たすプログラムを持っているという認定を受けており、5 年毎に審査を受けている。本校は来年度受審に向けて準備しているところである。なお、JABEE 審査受審等の有無に関わらず、日頃よりエンジニアの育成プログラムを構築し、実践しているところである。

◆ 参与会での質疑応答

【西野参与】

（１）入学生に対する広報活動について、中学生だけではなく、小学生の段階からアピールすることが望ましい。

（２）ACT からも種々提案しているところであるが、産業界との連携という点からも取り組んでほしい。

【本校の対応】

（１）小学生やその保護者にもアピールしていく必要がある。現在実施している公開講座を拡充していきたい。

（２）技術の進歩はめざましく、本校においても現状に甘んじることなく、ACT 会員企業様にも引き続きご協力いただきながら取り組んでいきたい。

【横手参与】

（１）卒業生がどのような分野で活躍されているか。

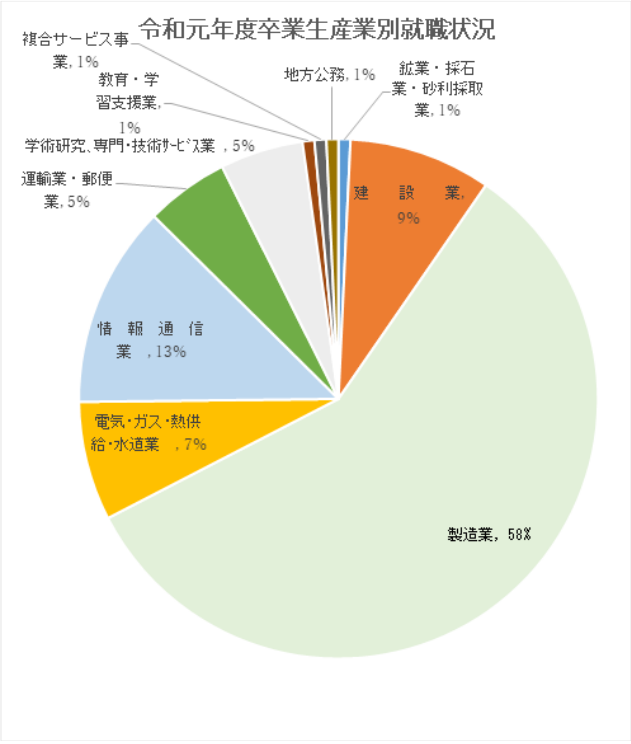
（２）神山高専ができるが、国立高専と私立高専はどのように差別化されるか。

【本校の対応】

（１） ３割ほどはキャリアアップのため１～２回ほど転職している。情報系では起業する者やサテライトオフィスをもつ東京の企業に就職し、サテライトオフィスのある美波町等で働いている。東京本社となっているところ、美波町や加茂谷のサテライトオフィスで勤務する。

なお、令和元年度卒業生・修了生、184 名のうち就職者が 73%、進学者が 26%、その他１%となっている。

また、本科生及び専攻科生の就職者 135 名の就職先の内訳について、産業別に見ると、製造業 58%、情報通信業　13%、運輸業・郵便業５%、学術研究、技術サービス５%等となっている。



（２）神山高専については現時点で詳細な情報はわからないが、神山高専と本校では育成する人材が異なるため阿南高専と競合するとは考えていない。

【湯藤参与】
（１）入試定員は今後削減されるということはあるのか。
（２）推薦入試の比率が増加するということはないか。
【本校の対応】
（１）定員を削減することはない。本校は高等教育機関であり、技術者、エンジニアが不足しているという現状、企業等からの要望に応えるためにも入学定員を削減することはない。
（２）阿南高専で頑張りたいというモチベーションを持つ中学生に応えるため、推薦枠の増について、検討を進めている。

【橋爪参与会長】
（１）“学びを止めない”というスローガンは阿南高専で作り、教職員に発せられたものか。
高専出身の先生方が徳島大学でも活躍されている。エンジニアを育てるということにぶれていないことがわかった。
大学としてできることがあれば協力したい。
【本校の対応】
（１）高専機構から発出されたスローガンであり、本校においても当該スローガンに基づき学びを止めることがないよう取り組んでいるところである。引き続き、“学びを止めない”をスローガンとして、徳島大学のご協力のもと連携しながら、教育・研究を推進していきたい。

◆ 校　長　挨　拶

事前にいただきましたご意見を含め、ご助言いただきましたことを今後の取組に反映いたします。教育・研究の高度化を目指し、地域、自治体、大学等、皆さまからのご協力を仰ぎながら、エンジニアとしての技術や知識だけではなく、人として他者を思いやれる心を育む教育を推進してまいります。

本報告書に対するご意見・ご相談はこちらへ　TEL:0884-23-7223
阿南工業高等専門学校
E-mail:s-hosasoumu@anan-nct.ac.jp
担当：総務課長補佐（総務担当）